

Veritas InfoScale™ Operations Manager 7.0 リ リースノート

Veritas InfoScale™ Operations Manager 7.0 リリース ノート

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 7.0

マニュアルバージョン: 7.0 リビジョン 0

法的な通知

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Veritas、および Veritas ロゴは米国およびその他の国における Symantec Corporation または関連会社の商標または登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標であることがあります。

このシマンテック製品には、サードパーティへの著作権を示す必要のあるサードパーティのソフトウェアが含まれる場合があります(「サードパーティプログラム」)。サードパーティプログラムのいくつかはオープンソースまたはフリーソフトウェアのライセンスで利用可能です。ソフトウェアに伴う使用許諾契約は、これらのオープンソースまたはフリーソフトウェアのライセンスに基づく権利および義務を変更するものではありません。サードパーティプログラムについて詳しくは、本書の付録に記載されているサードパーティの法的な通知や、本シマンテック製品に付属の TPIP ReadMe ファイルを参照してください。

この文書に記載する製品は、使用、複製、配布、逆コンパイル/リバースエンジニアリングを制限する使用許諾の下で配布されます。この文書のいかなる部分も、Symantec Corporation と、ある場合はその実施権許諾者の、事前の書面による承諾なしに、いかなる形態でいかなる手段によっても、複製されることはありません。

この文書は"現状のまま"として提供され、すべての明示的または暗示的な条件、表現、および保証(商品性、特定目的への適合性、または非侵害に関するあらゆる暗示的な保証を含む)に関する責任は、法的に無効と見なされる免責の場合を除き、免除されます。Symantec Corporation は、この文書の供給、履行、または使用に関連して付随的または間接的に起こる損害に対して責任を負いません。この文書に含まれる情報は予告なしに変更することがあります。

ライセンスソフトウェアおよびマニュアルは、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、シマンテック社によりオンプレミスで提供されるホストされたサービスとして提供されるかに関わらず、FAR Section 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」および DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その他の後継規制の規定により制限された権利の対象となります。使用許諾されたソフトウェアおよび文書の米国政府による修正、再生リリース、履行、表示または開示は、この契約の条件に従って行われます。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	このリリースの概要	10
	Veritas InfoScale Operations Manager について	10
	Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 の新機能と変更点	11
	ライセンスの簡素化	11
	ホスト追加操作機能の改良	11
	ホストの SmartIO の影響を監視する機能	11
	VMware の高速検出	12
	2048 ビット SSL 証明書のサポート	12
	CVR (Clustered Volume Replicator) サポートの改良	12
	FSS 操作サポートの改良	12
	VMware 仮想化環境の重複ホストのアラート	13
	MAC アドレスが変更された場合に適切なエラーを生成する	13
	Atleast 件数依存関係	13
	VCS リアルタイム状態の更新の高速化	13
	Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 リリースで解決された問題	14
第 2 章	システムの必要条件	15
	オペレーティングシステムの必要条件	15
	必要な他社のライブラリ	15
	Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API	15
	システムリソースの必要条件	16
	データログの領域の算出について	17
	管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について	20
	Web ブラウザの要件	23
	ネットワークとファイアウォールの要件	23
	インターネットプロトコルバージョンの必要条件	25
	管理対象ホストのコンポーネントの消費について	25

第 3 章	ソフトウェアの制限事項	27
	AIX の Network Installation Manager でサポートされない Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホスト	28
	管理対象ホストと CommandCentral Storage 管理サーバーは共存できな い	28
	HP-UX でイニシエータのライブ統計がサポートされない	28
	ドライブ文字なしでマウントされた LDM の管理下にあるボリュームでポリユー ムレイアウトが検出されない	29
	Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 でのバックアップとリストアの 制限事項	29
	Veritas InfoScale Operations Manager は同じホスト上にある LDom と ゾーンの同時検出をサポートしていない	29
	配備関連の制限事項	29
	Windows 管理サーバーの高可用性設定の制限事項	30
	Solaris ゾーン仮想化サポートの制限事項	30
	仮想化をサポートするための検出の制限事項	30
	クラスタの少なくとも 1 つのノードで Cluster Server を実行していないと VCS の設定検査で違反が報告されない	30
	ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項	31
	HP-UX11iv2 ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある	31
	Windows ホストにマップされている NetApp と Celerra のアレイから CIFS 共有が検出されない	31
	Veritas InfoScale Operations Manager でクラスタ化された VVR (Veritas Volume Replicator) が正しくサポートされない	31
	Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項	32
	RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する	32
	共有データストアに関連付けられた RDM ディスクにアクセスできない ESX サーバーが Veritas InfoScale Operations Manager による RDM ディスクの検出に失敗することがある	32
	コンソールでページ間を移動するときに Internet Explorer がセキュリティ 警告を表示することがある	33
	セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エ ンクロージャを設定できない	33
	クラスタノードを管理サーバーが管理している場合に、VBS 起動操作中に Veritas InfoScale Operations Manager が検証されない	33
第 4 章	既知の問題	35
	管理サーバーの問題	35
	Veritas InfoScale Operations Manager で、制御ホストによる VMware VirtualCenter サーバーの検出が遅延する (2342314)	35
	LDAP 認証の実行中に認証ブローカーがクラッシュする (2017319)	36

VRTSsfmh パッケージでの壊れた AT pem ファイルのため、XPRTLD デーモンが Veritas InfoScale Operations Manager の起動時 に失敗する (2145925)	36
管理サーバーをアンインストールすると Storage Foundation for Windows ホストから管理対象ホストパッケージが削除される	38
Veritas InfoScale Operations Manager が無効なアプリケーションの 状態を表示する (2564572)	39
仮想マシンの移行後、HMC サーバーおよび VMware vCenter Server の手動更新が必要になる (2605533)	39
VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングが、フェールオー バー後に正常に機能しないことがある (2814844)	40
VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラ が使われる場合に仮想ストレージの相関が機能しない (3056561)	41
Veritas InfoScale Operations Manager 高可用性 (HA) 環境で管理 対象ホストの状態が誤って報告される (2780631)	41
実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストでのみ正確であ る (3077899)	41
バージョン 5.x より前の管理対象ホストがストレージプロビジョンとボ リューム移行に対してリストされない	41
Hyper-V Server 上の同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが Veritas InfoScale Operations Manager で検出されない (3509138)	42
クラスターのディスク情報にホストの正しいデータが表示されない (3532746)	42
SAN ディスクで MPxIO を有効にした後に LDOM ストレージコンテナ に対するディスクの関連付けが行われない (3370824)	42
Qualsys スキャンが 5634 番のポートで失敗することがある (2903776)	43
管理対象ホストの問題	43
アップグレードした 7.0 管理サーバーに 7.0 より前のバージョンの管 理対象ホストを追加するとエラーが起きる	47
AIX 管理対象ホストでストレージのプロビジョニング操作を実行した後 に Quick I/O のキャッシュの値が有効にならない (2131183)	43
Storage Foundation for Windows 5.1 SP1 を実行するホスト上のシ ン LUN がシンとして検出されない (2513466)	44
セキュアクラスター間でリモート切り替え操作が失敗する (2530605)	44
HP-UX 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する (2601265)	45
Windows プラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマ ンスグラフを表示できない (3054870)	45

ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加 できない(2816487)	45
Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合に、不正 な統計が DMP によって返される(2796418)	45
クラスタ化された設定のスレーブノードからトリガされたときにディスクグ ループの作成操作が失敗する(3196104)	46
HP-UX 管理対象ホストで、パスイニシエータやアレイポート情報が一 部のディスクに対して表示されない(3073128)	46
完全修飾ホスト名が vfstab ファイルで使われているにもかかわらず ファイルシステムのマウントに使われていない場合に、Solaris の NFS を検出できない(2747735)	46
UNIX ホストの場合に[帯域幅 (Bandwidth)]タブに正しくないデータ が表示される(3484788)	46
7.0 より前のバージョンの管理対象ホストで CVR 操作が正しく働かな いことがある(3745404)	46
アップグレードした 7.0 管理サーバーに 7.0 より前のバージョンの管 理対象ホストを追加するとエラーが起きる	47
エージェントレス検出の問題	47
IPv6 アドレスを使ったホストのエージェントレス設定が失敗する (2414252)	47
Storage Insight アドオンの問題	47
IBM SVC アレイの最初の検出の後に、パテのキャッシュの手動更新 が必要になることがある(3114164)	47
ローカルにレプリケートされた EMC Symmetrix LUN で、最後の同期 時間が SYMCLI バージョン 7.4 以降に対してのみ利用可能で ある(3249430)	48
SYMCLI のバージョンが Storage Insight アドオン検出ホストでアップ グレードされたときに Symmetrix エンクロージャの手動検出が必 要になる(3289628)	48
エンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後 に正常に機能しないことがある(2814844)	48
EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージ グループに関する情報が定期的に検出されない(2842124)	49
Windows ホストで HP EVA エンクロージャを設定するときに、パスワー ドファイルオプションが機能しない(2757601)	50
読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオ ペレータロールを持つユーザーに対して、EMC Celerra エンク ロージャの詳細が検出されない	50
FAST 管理対象ストレージグループの一部のデバイスにティア情報が 表示されない(2795204)	50

IBM System Storage DS エンクロージャの検出が、Veritas InfoScale Operations Manager の HiCommand Server 7 でサポートされていない(2708346)	51
Virtual Business Service の問題	51
Virtual Business Service 起動操作によって、サービスグループのリソース重要度が確認されない(2169223)	51
Storage Insight SDK Add-onの問題	51
Storage Insight プラグインの編集操作とテスト操作が、64 ビット Windows ホストの Internet Explorer を使う環境でサポートされない(2826079)	51
Internet Explorer Web ブラウザで Storage Insight プラグインのアップロード操作が失敗することがある(3485662)	52
Fabric Insight アドオンの問題	52
高可用性モードで設定された Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーが検出ホストとして使われている場合に SAN スイッチの検出が失敗する(3513295)	52
vSphere Web Client 用 Veritas HA プラグインの問題	52
vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグインを VMware vSphere 5.1 と一緒に使っているときに高可用性(HA)ダッシュボードの状態データとシステムデータが突然消える	52
Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグインを登録解除した後も[高可用性(High Availability)]タブが表示される(3498886)	53
ApplicationHA ホストでの Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホストのインストールまたはアップグレード後に、ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが失敗する	54
HA コンソールアドオンタブの一部の操作が応答しなくなることがある(3805588)	54
その他の問題	54
仮想マシンの一部になっているディスクのエントリが重複する(2481982)	54
Firefox ブラウザを使ってロシア語のユーザー名で管理サーバーを設定できない	54
ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 の共存がサポートされない(2739241)	55
RVGPrimary リソースのリソース属性が検出されない	55
VMware VirtualCenter サーバーおよび ESX サーバーの検出で大文字/小文字が区別されない(2567318)	55
MSSQL HA 設定の場合に[インスタンス(instance)]タブにオフラインインスタンスが表示されない(3516063)	55
リソースとして設定された仮想マシンが 1 台しか検出されない(3488469)	55

特定の条件において単一ホストのエントリがホスタブに2つ表示されることがある(3724295)	55
biosuuid が重複している場合に仮想マシンの台数が正しくない(3782776)	56
データストアを NFS 相関するためにのアレイを更新する必要がある	56
アレイの設定時にパスワードに使えない特殊文字(3677693)	56

付録 A

サポート情報	57
Web 上での Veritas InfoScale Operations Manager 情報	57
サポート情報	57
製品マニュアルの使用	58

このリリースの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas InfoScale Operations Manager](#) について
- [Veritas InfoScale Operations Manager 7.0](#) の新機能と変更点
- [Veritas InfoScale Operations Manager 7.0](#) リリースで解決された問題

Veritas InfoScale Operations Manager について

シマンテック社の Veritas InfoScale Operations Manager は、Storage Foundation High Availability 製品用の単一の中央管理コンソールです。この製品では、ストレージソースとクラスタリソースの監視、視覚化、管理を行い、管理サーバードメイン内のそれらのコンポーネントに関するレポートを生成できます。Veritas InfoScale Operations Manager を使うと、管理者は多様なデータセンター環境を中央で管理できます。

Veritas InfoScale Operations Manager を使って、Storage Foundation High Availability 製品がインストールされていないホストを視覚化してそれらのホストに関するレポートを生成できます。

Veritas InfoScale Operations Manager では、承認されたユーザーが製品にアクセスして重要な管理タスクを実行できるように、ユーザークレデンシヤルを作成できます。その他のユーザーは基本的な一連の機能のみの実行、または情報を表示することのみが可能です。

標準的な Veritas InfoScale Operations Manager の導入は、次のもので構成されます。

- 管理サーバー
- 管理対象ホスト

Veritas InfoScale Operations Manager の配備では、次についても検出できる場合があります。

- 仮想化環境

- SAN/NAS またはユニファイドストレージ
- SAN ファブリック

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 の新機能と変更点

Veritas InfoScale Operations Manager のこのリリースは、次の新機能と変更点と拡張機能を備えています。

ライセンスの簡素化

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 ではライセンスが変更されて次の機能を使うことができるようになりました。

- 新しい InfoScale ライセンスの検出
- 同じホストに配備された複数の InfoScale ライセンスから有料ライセンスを検出
- 有料の InfoScale 製品それぞれのコア対ライセンス値の検出
- InfoScale 製品の配備の概略と詳細
- InfoScale 製品のコア対ライセンス配備の追跡
- コアごとのライセンスの概略レポート
- What-if 分析レポート

ホスト追加操作機能の改良

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 では、ホスト追加操作に次の 2 つの大幅な改良を加えました。

- コンソールでホストの並列追加操作を実行して多数のホストを素早く追加。
- 管理対象ホストのパッケージがホストに存在しない場合は、ホスト追加操作を実行する前にホストのパッケージをホストにプッシュ型で転送してインストールできます。

ホストの SmartIO の影響を監視する機能

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 を使って、対話型グラフにホストの SmartIO を有効にした場合の影響を表示できます。ホストとアプリケーションのグラフを表示できます。

VMware の高速検出

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 から、VMware 検出時間が著しく短縮されました。これは、VMware 検出時にデータストアの参照をスキップすることにより実現されました。virtualization.conf ファイルの `atastore_browse` フラグは、仮想ディスクの詳細を検出する場合にデータストアを参照する必要があるかどうかを示します。この設定パラメータのデフォルト値は 0 です。この値はデータストアの参照をスキップすることを意味します。データストアを参照する必要がある場合は、このパラメータを 1 に設定します。

データストアの参照をスキップすると、以前のバージョンの Veritas InfoScale Operations Manager と比較して VMware 検出で差異が検出されます。

- 一部の VMware 仮想マシンに接続した仮想ディスクのみが検出されます。
- 物理的な割り当て、使用済み領域、使用率(%)、シン/非シンなどの一部の仮想ディスク属性は検出されません。

2048 ビット SSL 証明書のサポート

バージョン 7.0 以降の Veritas InfoScale Operations Manager では、管理サーバーと管理対象ホスト間の通信に 2048 ビット証明書を使うことができます。管理サーバーを 7.0 にアップグレードする場合は管理サーバーをアップグレードした後で、管理サーバーでスクリプトを実行してすべての管理サーバードメインを 2048 ビット証明書に移行する必要があります。7.0 にアップグレードした管理サーバーに、7.0 より前のバージョンの管理対象ホストは追加できません。

CVR (Clustered Volume Replicator) サポートの改良

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 では次の CVR 機能が改良されました。

- 複製の設定と CVR サポートの簡素化
- 既存の VVR 操作の CVR サポート
- シングルクリックでの複製の設定解除
- 既存の複製へのボリュームの関連付け
- セカンダリの再同期化

FSS 操作サポートの改良

FSS (Flexible Shared Storage) では、CVM クラスタのホストでホストのローカルストレージまたは部分的に共有しているストレージを使うことができます。Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 では、6.1 ですでにサポートされている機能に加えて次の機能を使うことができます。

- クラスタビューからの専用ストレージの視覚化

- ボリューム作成の簡素化

VMware 仮想化環境の重複ホストのアラート

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 は、VMware 仮想化環境で重複する管理対象ホストを検出する機能を備えています。管理対象ホストが重複しているとエラーが起きます。

MAC アドレスが変更された場合に適切なエラーを生成する

7.0 より前の Veritas InfoScale Operations Manager では、管理対象ホストの MAC アドレスが変更されると管理対象ホストは切断状態になり、ホストでエラーが生成されました。ユーザーはこの動作の正確な理由がわかりませんでした。

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 以降では、ホストの MAC アドレスを変更したために `hostguid` が変更された場合に適切なエラーが表示されます。ユーザーはこの問題を解決するために、ドメインからホストを削除して、そのドメインに再びホストを追加することを求められます。

Atleast 件数依存関係

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 は、親リソースが一組の子リソースに依存する Atleast 件数依存関係の機能を備えています。

親リソースに対して最小数の子リソースを設定できます。親リソースがオンラインになるかオンラインを維持するには、設定された子リソースがオンラインである必要があります。

VCS リアルタイム状態の更新の高速化

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 は、変更を検出した場合に生成される VCS 通知を待機して VCS の状態を監視します。VCS 関連の情報を検出して、最新の状態と設定の変更が Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーで更新されます。

VCS 検出のパフォーマンスは、Veritas InfoScale Operations Manager 管理対象ホストの VCS 状態の変更と設定の変更を分けることにより、VCS クラスタノードのリアルタイムの状態を通知するように改良されました。VCS のニアリアルタイム検出では VCS のリアルタイム状態の変更にのみ応じて、Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーに最新の状態の変更をすぐに報告できます。従来の VCS 検出では、詳しい設定の変更を検出します。

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 リリースで解決された問題

表 1-1 に、Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 リリースで解決された管理サーバーの問題のリストを示します。

表 1-1 Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 で解決された問題

問題	説明
3271960	システムロケールが英語かまたは英語以外かによって、表示される Windows ホストの OS バージョン名が異なる。
3530272	Windows 管理サーバーのデータベースがデフォルト以外の場所にある場合に VMware 仮想マシンの電源状態のニアリアルタイム更新が機能しない。
3342986	違反したライセンス配備ポリシーが正しく表示されない。
3517058	Windows ホストで制御ホストアドオンのアップグレード処理が完了したと表示されるが、vCenter を追加または削除できない。
3518586	Solaris 管理対象ホストでメモリ使用状況のライブ統計に表示される空きメモリが正しくない。
2484139	英語以外のロケールを実行する Windows ホストのエージェントレス設定が失敗する。
2844028	要求元不明の VPLEX エクステンツの場合に、ストレージ計算の一貫性欠如が起きる。
3247859	EMC Symmetrix アレイポートとアダプタのパフォーマンスグラフが表示されないことがある。
3491987	アプリケーションの設定後に通知シンクリソース VCSAppMonNSRes がエラー状態のままになる。
3330363	ディスクが 2 TB より大きい場合に正しくないサイズが検出される。
353034	ディスクの接続性ポリシー検査でポリシー検査違反が生成されない。

システムの必要条件

この章では以下の項目について説明しています。

- [オペレーティングシステムの必要条件](#)
- [必要な他社のライブラリ](#)
- [システムリソースの必要条件](#)
- [Web ブラウザの要件](#)
- [ネットワークとファイアウォールの要件](#)
- [管理対象ホストのコンポーネントの消費について](#)

オペレーティングシステムの必要条件

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 のオペレーティングシステムの必要条件については、『Veritas InfoScale Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)』を参照してください。

必要な他社のライブラリ

このセクションでは、Veritas InfoScale Operations Manager の実行に必要な他社のライブラリを一覧表示します。

- [「Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API」](#)

Windows ホストで必要な 32 ビット SNIA Common HBA API

デバイスに接続されているファイバーチャネルを正しく検出する (HBA とそのターゲットポートの検出を含む) ため、Veritas InfoScale Operations Manager では、HBA コントローラを実行するすべての Windows 管理対象ホストに 32 ビット SNIA Common HBA API がインストールされている必要があります。

Common HBA API は通常、HBA の製造元のドライバキットの一部として提供されるか、または HBA の製造元のサイトからダウンロードできます。

次の手順に従って、SNIA Common HBA API がすでに Windows ホスト上に存在するかどうかを判断します。

Windows ホストに 32 ビット SNIA Common HBA API がインストールされているか確認するには

- 1 regedit コマンドを使って、管理対象ホストでレジストリエディタを開きます。
- 2 次の場所を調べて、SNIA ライブラリ情報を取得します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\SNIA\HBA\hba_model
```

64 ビットプラットフォームでは、Veritas InfoScale Operations Manager は前提条件として 32 ビットライブラリがインストールされている必要があります。詳しくは HBA の製造元のマニュアルを参照してください。

システムリソースの必要条件

このセクションでは、Veritas InfoScale Operations Manager に必要な CPU コア、メモリ、ディスク領域の容量を示します。次に示す要件は、同じサーバーで実行されている他のソフトウェアアプリケーションで使用されるリソースに加えて必要とされるものです。

管理サーバー:

環境サイズ	CPU コア	メモリ	ディスク容量
小(最大 300 の管理対象ホスト)	4	4GB	5GB
中(最大 1500 の管理対象ホスト)	8	16GB	20GB
大(最大 3500 の管理対象ホスト)	16	32GB	40 GB

- 管理サーバーが Storage Insight Add-on を使ったエンクロージャの詳細検出に使用される場合、4GB のメモリと 5GB のディスク領域を追加します。
- 管理サーバーが仮想化インフラの検出に使用される場合、4GB のメモリと 5GB のディスク領域を追加します。

Veritas InfoScale Operations Manager のシステムリソース必要条件の追加検討事項:

- 少なくとも RAM の 2 倍の大きさのスワップ領域を与えることをお勧めします。
- 製品の最適なパフォーマンスのために、管理対象ホストを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。
- システムリソース要件は、製品が配置される実際の環境に基づいて変わる場合があります。

管理対象ホスト:

- CPU コア: 1
- メモリ: 1GB
- ディスク領域: 2GB
- **Storage Insight Add-on** を使ったエンクロージャの詳細検出に検出ホストとして使用される場合、**4GB** のメモリ **5GB** のディスク領域を追加します。

制御ホスト(制御ホストアドオンのあるホスト)の場合:

- CPU: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとにデュアルプロセッサ 1 つ
- メモリ: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとに **4GB** 制御ホストを仮想化インフラの検出に使う場合には、**4GB** の追加メモリが必要です。
- ディスク領域: エージェントレス検出用として、管理対象ホスト **1000** 台ごとに **15GB** のディスク領域

メモ: 上記のいずれかが仮想環境で実行されている場合、製品の最良のパフォーマンスのために、**CPU** コアやメモリなどのリソースを仮想マシン専用にご勧めします。

このリリースに関する更新、パッチ、ソフトウェア問題の最新情報については、次の最新ニュースの **TechNote** を参照してください。

データログの領域の算出について

Veritas InfoScale Operations Manager では、さまざまなリソースのパフォーマンスに関する履歴データが、固定サイズのバイナリファイルに収集されます。循環ラウンドロビンアレイに新しいデータが入ると古いデータが上書きされます。計測値の数、データ挿入の頻度、オブジェクトの数、ロールアップデータベースがバイナリファイルのサイズに影響します。高分解能データは低分解能データに圧縮されます。

パフォーマンスメータリングの統計について詳しくは、『Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーユーザズガイド』を参照してください。

表 2-1 では、各種リソースのデータログに対する領域算出について説明しています。算出では、リソース数の列のデータは標準的な環境に基づいています。収集される計測値の列は、各リソースで収集される計測値の数を表します。たとえば、DMP パスの場合、収集される計測値の総数は、読み取りバイト数、書き込みバイト数、平均読み取り時間、平均書き込み時間の 4 つです。

ホスト、ボリューム、ディスク、ファイルシステム、パス、イニシエータのデータログは、管理対象ホストに格納されます。仮想化サーバー、仮想マシン、パス、イニシエータのデータログは、制御ホストに格納されます。ストレージアレイ(ポート、アダプタ、エンクロージャ)

の場合、1日分のデータログは検出ホストに格納されますが、他のすべてのログは管理サーバーに格納されます。

メモ: Veritas InfoScale Operations Manager が高可用性環境で設定されている場合、ストレージレイポート、アダプタ、エンクロージャのログは共有ディスクに保存されます。VMware ESX サーバーと仮想マシンのログは共有ディスクに保存されます。

表 2-2 では、Windows プラットフォームのホスト、ファイルシステム、ボリュームおよびディスクのデータログのための領域の算出を一覧表示します。

表 2-1 データログの領域の算出

リソース名	リソース数	収集される計測値の数	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ホスト、 VMware ESX サー バー、仮想 マシン	1	5	5 分	1 日	24	24
	1	5	2 時間	1 カ月	29	29
	1	5	1 日	1 年	30	30
マルチパス 用パス	1000	4	5 分	1 日	18967	19
	1000	4	2 時間	1 カ月	23477	24
イニシエー タ	4	9	5 分	1 日	171	43
	4	18	2 時間	1 カ月	423	106
	4	18	1 日	1 年	428	107
エンクロー ジャ	4	4	5 分	1 日	76	19
	4	8	2 時間	1 カ月	8	2
	4	8	1 日	1 年	190	46
ファイルシス テム	100	3	5 分	1 日	1423	14
	100	3	1 日	1 年	1784	18

リソース名	リソース数	収集される計測値の数	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ボリューム	100	4	1分	6時間	2348	23
	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2348	23
	100	4	1日	1年	2379	24
ディスク	100	4	1分	6時間	2348	23
	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2347	23
	100	4	1日	1年	2379	23
ストレージ レイ-アレイ ポート	32	2	30分	1日	304	9
	32	4	2時間	1カ月	751	23
	32	4	1日	1年	761	24
ストレージ レイ-アダプ タ	8	2	30分	1日	76	9
	8	4	2時間	1カ月	188	23
	8	4	1日	1年	190	24
ストレージ レイ-エンク ロージャ	1	1	30分	1日	5	5
	1	2	2時間	1カ月	12	12
	1	2	1日	1年	12	12

表 2-2 Windows ホストのデータログ領域の算出

リソース名	リソース数	収集される計測値	収集の間隔	収集の期間	サイズ(キロバイト)	単一のオブジェクトのサイズ(キロバイト)
ホスト	1	5	5分	1日	24	24
	1	5	2時間	1カ月	29	29
	1	5	1日	1年	30	30
ファイルシステム	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2348	23
	100	4	1日	1年	2379	24
ボリューム	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2348	23
	100	4	1日	1年	2379	24
ディスク	100	4	5分	1日	1898	19
	100	4	2時間	1カ月	2347	23
	100	4	1日	1年	2379	23

管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について

次の表で、管理サーバーデータベースにおける管理対象ホストの情報の更新頻度について説明します。各管理対象ホストの検出は特定の機能領域に焦点を合わせて検出ファミリーに分けられています:

ファミリー	頻度(分単位)	検出される情報
ホスト	1440	ホストのオペレーティングシステム、パッケージ、ネットワーク。 通常、このファミリーに関連する情報のほとんどは頻繁には変わりません。
SF	30	Volume Manager、File System、関連するストレージネットワーク。

ファミリー	頻度(分単位)	検出される情報
VCS	60	Cluster Server と関連情報。
DB	360	Oracle、DB2、MSSQL、Sybase データベース、これらのストレージの依存関係。
LDR	1440	ホストにインストールされているライセンス。
NR	5	設定の状態と外部障害。
ネーティブ	360	サードパーティのボリューム管理情報。
PCV_NOTIFY	30	管理サーバーと 6.1 以前の管理対象ホストで計算されたポリシー検査の違反。管理対象ホスト 6.1 以降で計算された違反は別の検出を必要としません。
ゾーン	120	Oracle Solaris のゾーンとストレージの依存関係。
LDom	120	Oracle Solaris LDom、関連 CPU、およびメモリの情報。
KVM	120	KVM、KVM とホストとの関連付け。
Hyper-V	120	仮想マシンとストレージ検出。
LPAR	360	ホスト、ゲスト、ストレージ情報。
VMware	360	ESX サーバー、仮想マシン、およびストレージの依存関係。 メモ: この情報は、制御ホストのアドオンが制御ホストとして指定される管理対象ホストにインストールされるときのみ検出されます。

ファミリー	頻度 (分単位)	検出される情報
エージェントレス	360	<p>制御ホストでエージェントレスの対象に設定されているホストに関する次の情報:</p> <ul style="list-style-type: none">■ IP アドレス、オペレーティングシステム、CPU とメモリの使用状況■ ホスト上のホストバスアダプタ (HBA)■ ホスト上のディスクに加え、それらのディスクとアレイ LUN やマルチパスとの関連付け■ ネーティブボリュームマネージャ上のボリュームとボリュームグループ■ ファイルシステムのマウントポイントに加え、ファイルシステムとディスクとの関連付け■ VMware ゲスト環境では、ゲストと仮想マシンとの関連付けに加え、ゲスト内のストレージと、ESX サーバーからエクスポートされたストレージとの関連付け <p>メモ: この情報は、制御ホストのアドオンが制御ホストとして指定される管理対象ホストにインストールされる時のみ検出されます。</p>
エンクロージャ	360	<p>論理デバイス、物理デバイス、ホストのアソシエーション、レプリケーション、および他のエンクロージャ固有のプロパティ。これは Storage Insight アドオンによって有効化されます。</p>
スイッチ	360	<p>スイッチ、スイッチポート、ゾーン、ゾーンのメンバーおよび他の製造元固有のプロパティ。これは Fabric Insight アドオンによって有効化されます。</p>

メモ: Storage Foundation ファミリーと Cluster Server ファミリーの検出はイベント駆動型であり、スケジュールが設定されます。これは管理対象ホストの設定が変更されると検出がトリガされることを意味します。このため、次回の更新時に Veritas InfoScale Operations Manager データベースでこの情報が更新されます。設定の変更が管理対象ホストで検出されなければ、管理対象ホストと管理サーバー間の通信は 5 分ごとに発生するハートビート通信に制限されます。

p.16 の「システムリソースの必要条件」を参照してください。

Web ブラウザの要件

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 の Web ブラウザの必要条件については、『Veritas InfoScale Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)』を参照してください。

ネットワークとファイアウォールの要件

複数のドメイン内のホストを管理しようとしている場合は、ネットワーク設定を更新してすべてのドメインのホストを解決してください。

ホストから *localhost* が解決できることを確認する必要があります。

ホストから *localhost* を解決できない場合は、ネットワーク設定を更新して有効にしてください。

高可用性の Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーでは、すべてのクラスターノードの仮想 IP と物理 IP の両方のファイアウォール設定を行う必要があります。

Veritas InfoScale Operations Manager は、表 2-3 に示すデフォルトのポートを使って情報を転送します。

表 2-3 Veritas InfoScale Operations Manager のインストールで使用されるデフォルトのポート

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
5634	TCP	管理サーバー	管理サーバーの設定	管理サーバーは設定することができません。
5636	TCP	管理サーバー	管理サーバーのデータベース設定	管理サーバーは設定することができません。

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
5634	TCP		管理対象ホストとの管理サーバーの通信	管理対象ホストは管理サーバードメインに追加できません。
5634	TCP	管理対象ホスト	ハートビートを送信する管理対象ホスト。管理対象ホストから管理サーバーにデータをアップロードする場合にも使われます。 メモ: 拡張性とパフォーマンスを最適化するために、管理対象ホスト間でポート 5634 を開いたままにすることをお勧めします。	管理対象ホストは管理サーバードメインに追加できません。
22			SSH 通信	
135			WMI 通信	
14161	TCP	Web ブラウザ	管理サーバーコンソールの実行	ユーザーは管理サーバーコンソールにアクセスできません。
162	UDP	Vmware VCenter server	SNMPトラップの受信	管理サーバーは VMWare VCenter から仮想マシンの状態の変更の SNMPトラップを受信できません。 VMware インフラの変更はニアリアルタイム (NRT) で検出できません。
21	FTP	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。

ポート	プロトコル	イニシエータ	目的	ブロックされた場合の影響
80	HTTP	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。
443	HTTPS	管理サーバー	SORT との管理サーバーの接続性	管理サーバーは SORT からパッチをダウンロードできません。

インターネットプロトコルバージョンの必要条件

Veritas InfoScale Operations Manager の各種コンポーネントが IPV6、IPV4、または混在モードでサポートされます。

表 2-4 に、Veritas InfoScale Operations Manager の IPV4 と IPV6 のサポートを説明します。

表 2-4 IPV4 と IPV6 のサポート

コンポーネント	IPV6	IPV4	混在モード (IPV4 と IPV6)
管理サーバー (Management Server)	サポート対象外	サポート対象	サポート対象 メモ: 混在モードで実行される管理サーバーでは、管理サーバーの設定中に IPV4 アドレスのみを使ってください。
管理対象ホスト (Managed Host)	サポート対象	サポート対象	サポート対象
制御ホスト (Control Host)	サポート対象	サポート対象	サポート対象

p.23 の「ネットワークとファイアウォールの要件」を参照してください。

管理対象ホストのコンポーネントの消費について

Veritas InfoScale Operations Manager の管理対象ホストコンポーネントは、ある程度の量の CPU、メモリ、ネットワーク帯域幅を各種機能のために消費します。

Veritas InfoScale Operations Manager のさまざまなプロセスとサービスにより、管理対象ホストには異なる大きさの負荷がかかります。管理対象ホスト上のプロセスとサービスとしてその消費量は次のとおりです。

- UNIX/Linux - XPRTLD、VXDCLID、sfmh-discovery.pl デーモンを使います。これらのデーモンの CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。
- Windows - XPRTLD デーモンを使います。このデーモンの CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。
- 検出 - Veritas InfoScale Operations Manager での検出は短時間です。したがって、検出の CPU とメモリの消費は、管理対象ホストでは最小です。

管理対象ホストのネットワーク帯域幅の消費は、主に、5 分ごとに行われるハートビートに関連しています。ハートビート動作では、1 KB 未満のサイズのデータが管理サーバーに送信されます。データのレポートは、管理対象ホストに関連付けられているストレージオブジェクトで設定が変更された場合にのみ行われます。ある程度の量のネットワーク帯域幅がデータレプリケーションにも使われます。

p.20 の「[管理対象ホスト、エンクロージャ、およびスイッチの情報検出の頻度について](#)」を参照してください。

ソフトウェアの制限事項

この章では以下の項目について説明しています。

- **AIX** の **Network Installation Manager** でサポートされない **Veritas InfoScale Operations Manager 7.0** 管理対象ホスト
- 管理対象ホストと **CommandCentral Storage** 管理サーバーは共存できない
- **HP-UX** でイニシエータのライブ統計がサポートされない
- ドライブ文字なしでマウントされた **LDM** の管理下にあるボリュームでボリュームレイアウトが検出されない
- **Veritas InfoScale Operations Manager 7.0** でのバックアップとリストアの制限事項
- **Veritas InfoScale Operations Manager** は同じホスト上にある **LDom** とゾーンの同時検出をサポートしていない
- 配備関連の制限事項
- **Windows** 管理サーバーの高可用性設定の制限事項
- **Solaris** ゾーン仮想化サポートの制限事項
- 仮想化をサポートするための検出の制限事項
- クラスタの少なくとも 1 つのノードで **Cluster Server** を実行していないと **VCS** の設定検査で違反が報告されない
- ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項
- **HP-UX11iv2** ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある
- **Windows** ホストにマップされている **NetApp** と **Celerra** のアレイから **CIFS** 共有が検出されない
- **Veritas InfoScale Operations Manager** でクラスタ化された **VVR (Veritas Volume Replicator)** が正しくサポートされない

AIX の Network Installation Manager でサポートされない Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホスト

- Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項
- RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する
- 共有データストアに関連付けられた RDM ディスクにアクセスできない ESX サーバーが Veritas InfoScale Operations Manager による RDM ディスクの検出に失敗することがある
- コンソールでページ間を移動するときに Internet Explorer がセキュリティ警告を表示することがある
- セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定できない
- クラスタノードを管理サーバーが管理している場合に、VBS 起動操作中に Veritas InfoScale Operations Manager が検証されない

AIX の Network Installation Manager でサポートされない Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホスト

NIM (Network Installation Manager) を使って AIX に Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホストをインストールすることはサポートされていません。

管理対象ホストと CommandCentral Storage 管理サーバーは共存できない

CommandCentral Storage 管理サーバーがインストールされているホストに Veritas InfoScale Operations Manager 管理対象ホストをインストールしないでください。インストールが成功しても、管理サーバードメインにホストを追加する操作は失敗します。

HP-UX でイニシエータのライブ統計がサポートされない

Veritas Volume Manager 5.0 以前のリリースを使用する HP-UX ホストのパフォーマンスグラフに、イニシエータのライブ統計を表示できません。

ドライブ文字なしでマウントされた LDM の管理下にあるボリュームでボリュームレイアウトが検出されない

Veritas InfoScale Operations Manager はボリュームマネージャの種類が Microsoft LDM の場合、Storage Foundation for Windows がインストールされていない Windows ホストにドライブ文字なしでマウントされたボリュームのレイアウトを検出しません。結果として、Veritas InfoScale Operations Manager コンソールでは、このボリュームの [レイアウト (Layout)] 列は [不明 (Unknown)] と表示されます。

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 でのバックアップとリストアの制限事項

Linux では、ディザスタリカバリのために、vom_bkup.pl バックアップスクリプトを使って、高可用性設定で既存の管理サーバーをバックアップおよびリストアすることはできません。

Windows では、vom_bkup.pl バックアップスクリプトによって、高可用性設定の既存の管理サーバーをバックアップできます。ただし、高可用性設定をリストアするためにバックアップスクリプトを使うことはできません。この機能は現在サポートされていません。バックアップデータをリストアするには、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。

Veritas InfoScale Operations Manager は同じホスト上にある LDom とゾーンの同時検出をサポートしていない

Veritas InfoScale Operations Manager は同じ Solaris ホスト上に LDom とゾーンが共存している場合、それらの検出をサポートしていません。LDom とゾーンの両方が共存している設定では、Veritas InfoScale Operations Manager は LDom を検出します。

配備関連の制限事項

Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーはバージョン 6.0 以前のバージョンからバージョン 6.1 に直接アップグレードすることができません。

バージョン 6.0 以前からアップグレードする場合は、次を実行します。

- 最初にバージョン 6.0 にアップグレードしてから、バージョン 7.0 にアップグレードします。

Windows 管理サーバーの高可用性設定の制限事項

Veritas InfoScale Operations Manager は、高可用性環境に Windows 管理サーバーを設定する場合、Windows Server 2008 (64 ビット)と Windows Server 2008 R2 (64 ビット)のみをサポートしています。

Veritas InfoScale Operations Manager は、Windows 管理サーバーの高可用性設定にディザスタリカバリ機能を設定することはサポートしていません。

Solaris ゾーン仮想化サポートの制限事項

グローバルゾーンに `VRTSsfmh` パッケージをインストールする必要があります。非グローバルゾーンには `VRTSsfmh` パッケージをインストールできません。

Veritas InfoScale Operations Manager は、Solaris ゾーンの仮想化に対するディスクスライスの検出をサポートしません。Veritas InfoScale Operations Manager は完全なディスクのみをサポートします。

Veritas InfoScale Operations Manager での Solaris ゾーンの仮想化は、非グローバルゾーンで実行される Oracle、DB2、Sybase のセキュアデータベースインスタンスの検出をサポートしません。

仮想化をサポートするための検出の制限事項

Veritas InfoScale Operations Manager では、仮想化をサポートするために次のような検出の制限事項があります。

- Veritas InfoScale Operations Manager は、Linux カーネル仮想マシン (KVM) の環境でのストレージ検出をサポートしません。
- LPAR の場合、Veritas InfoScale Operations Manager は仮想マシンの電源オン状態しか表示しません。
- HMC サーバーによって順に管理される、LPAR サーバー上に設定された Linux ベースの LPAR ゲスト仮想マシンの場合、オペレーティングシステムおよびオペレーティングシステムのバージョンは検出されません。

クラスタの少なくとも 1 つのノードで Cluster Server を実行していないと VCS の設定検査で違反が報告されない

クラスタのいずれかのシステムで Cluster Server が実行されていなければ Veritas InfoScale Operations Manager の VCS 設定ポリシー検査は違反を報告しません。ま

た、クラスタにシステムが1つしかない場合は、そのシステムで Cluster Server が実行されていなければ VCS の設定検査は違反を報告しません。

ディスクとディスクグループ間の関連付けの制限事項

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 には、ディスクとディスクグループ間の関連付けに関連している次の制限事項が存在します。

- ディスクの1つのパーティションに、そのディスクでマウントされているファイルシステムが含まれていて、他のパーティションがディスクグループに属している場合、ファイルシステムの詳細表示またはディスクグループの詳細表示でディスク情報を表示することはできません。
- ディスクの2つのパーティションが2つのディスクグループに属している場合、いずれかのディスクグループの詳細表示でディスク情報を表示することはできません。

HP-UX11iv2 ホストで、コア密度が正しく計算されないことがある

HP-UX 11.23 管理対象ホストで検出されるコア密度(コア数/物理プロセッサ)は、CLI 関連の制限事項によって正しくない可能性があります。コア密度の値が誤っていると、そのホストの SPVU (Symantec Performance Value Unit) 情報を LDR が計算できません。ユーザーはホストに SPVU を手動で割り当てることができます。

Windows ホストにマップされている NetApp と Celerra のアレイから CIFS 共有が検出されない

Veritas InfoScale Operations Manager では、非システムアカウントユーザーによって Windows ホストにマップされた NetApp と Celerra のアレイから CIFS (Common Internet File System) 共有が検出されません。

Veritas InfoScale Operations Manager でクラスタ化された VVR (Veritas Volume Replicator) が正しくサポートされない

Veritas InfoScale Operations Manager では、クラスタ環境内の VVR (Veritas Volume Replicator) の複製されたボリュームグループ (RVG) とホストリレーションシップが正しく表示されません。

Windows CVM クラスタでの SF 操作に関する制限事項

管理サーバーコンソールでは、Windows CVM クラスタ上のクラスタ共有型の SF ディスクグループに対する操作とこのようなディスクグループのボリュームに対する操作が使用できません。

RHEL 7 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する

Veritas Operations Manager コンソールでは、RHEL 7 管理対象ホストをエージェントから追加すると、操作が失敗することがあります。このエラーは、RHEL 7 に新しく導入されたファイアウォールデーモン (`firewalld`) が原因で発生します。

回避策:

次のいずれかを実行します。

- 次のコマンドを使用してファイアウォールデーモンの状態を調べます。

```
systemctl status firewalld
```

デーモンが実行されている場合、次のコマンドを使用してオフにする必要があります。

```
systemctl stop firewalld
```
- 特定のポートのみを許可する場合には、次のコマンドを使用します。

```
firewall-cmd --permanent --zone=public --add-port=port/tcp
```

ここで、*port* は許可するポート番号です。

共有データストアに関連付けられた RDM ディスクにアクセスできない ESX サーバーが Veritas InfoScale Operations Manager による RDM ディスクの検出に失敗することがある

これは Veritas InfoScale Operations Manager を使う VMware 仮想化検出に適用されます。この問題は、(仮想マシンにストレージを提供する) RDM ディスクが、複数の ESX サーバー間で共有されるデータストアに関連付けられ、いくつかの ESX サーバーに RDM ディスクへのアクセス権がない場合に発生します。このような場合には、RDM ディスクが Veritas InfoScale Operations Manager によって検出されないことがあります。

回避策:

すべての ESX サーバーに RDM ディスクへのアクセス権があることを確認します。

コンソールでページ間を移動するときに Internet Explorer がセキュリティ警告を表示することがある

管理サーバーコンソール内でページを移動すると、Internet Explorer がセキュリティ警告を表示することがあります。

「安全に配信された Web ページコンテンツのみを表示しますか?」

回避策:

セキュリティメッセージで、[いいえ]をクリックするとページに進めます。

または、Internet Explorer のセキュリティ警告メッセージを無効にできます。

Internet Explorer のセキュリティ警告メッセージを無効にするには

- 1 [ツール]、[インターネットオプション]、[セキュリティ]の順に選択します。
- 2 [セキュリティ]タブで、[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
- 3 [その他]セクションで[混在したコンテンツを表示する]の下にある[有効にする]を選択します。

セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定できない

セキュリティファイルを使って Windows 制御ホストの EMC CLARiiON エンクロージャを設定することはできません。

回避策:

セキュリティファイルを使って EMC CLARiiON を設定するには、Windows 制御ホストの代わりに UNIX 制御ホストを選択します。

クラスタノードを管理サーバーが管理している場合に、VBS 起動操作中に Veritas InfoScale Operations Manager が検証されない

VBS (Virtual Business Service) 起動操作を行うとき、Veritas InfoScale Operations Manager は Management Server がクラスタノードを管理するかどうかを確認しません。Veritas InfoScale Operations Manager は、そのサービスグループに利用可能なシステムで -any オプションを使用してサービスグループをオンラインにします。

回避策:

クラスタノードを管理サーバーが管理している場合に、**VBS** 起動操作中に **Veritas InfoScale Operations Manager** が検証されない

機能的損失はないですが、すべてのクラスタノードを **Management Server** ドメインに追加することをお勧めします。

既知の問題

この章では以下の項目について説明しています。

- [管理サーバーの問題](#)
- [管理対象ホストの問題](#)
- [エージェントレス検出の問題](#)
- [Storage Insight アドオンの問題](#)
- [Virtual Business Service の問題](#)
- [Storage Insight SDK Add-onの問題](#)
- [Fabric Insight アドオンの問題](#)
- [vSphere Web Client 用 Veritas HA プラグインの問題](#)
- [その他の問題](#)

管理サーバーの問題

次の問題は Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーに関連しています。

Veritas InfoScale Operations Manager で、制御ホストによる VMware VirtualCenter サーバーの検出が遅延する(2342314)

Veritas InfoScale Operations Manager では、制御ホストを使った VMware VirtualCenter サーバーの検出が完了するまで長い時間がかかることがあります。この問題が起きる理由は、VirtualCenter サーバーに関連付けられているデータストアの一部が時間どおり応答せず、その結果タイムアウトになるからです。

回避策:

VMware SDK のログから、VirtualCenter サーバーの検出遅延の原因になっているデータストアを識別できます。データストアが含まれる VirtualCenter サーバーでは、[管理 (Administration)]、[vServer の設定 (vServer Settings)]、[タイムアウトの設定 (Timeout Settings)] の順に選択し、タイムアウトをより低い値に設定します。

LDAP 認証の実行中に認証ブローカーがクラッシュする (2017319)

LDAP が PAM と TLS を有効にして設定されているホストで、LDAP 認証を実行している間に、認証ブローカーがクラッシュすることがあります。

回避策:

次の変更を実行します。

- `start_tls` を無効にします。
- `authsequence` から PAM を削除します。

start_tls パラメータを無効にするには

- ◆ `/etc/ldap.conf` ファイルで、`ssl start_tls` の後ろに次の行を追加します。

```
ssl no
```

authsequence から PAM を削除するには

- ◆ `EAT_DATA_DIR/root/.VRTSat/profile/VRTSatlocal.conf` ファイルで、次のエントリから `pam` を削除します。

```
"DefaultAuthSequence"="pam unixpwd nis nisplus"
```

VRTSsfmh パッケージでの壊れた AT pem ファイルのため、XPRTLD デーモンが Veritas InfoScale Operations Manager の起動時に失敗する (2145925)

AT pem ファイル (VRTSsfmh パッケージの証明書ファイル) が壊れている場合、XPRTLD デーモンは Veritas InfoScale Operations Manager の起動時に失敗します。

回避策:

UNIX で壊れた AT pem ファイルを修復するには

- 1 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを停止します。

```
/opt/VRTSsfmh/adm/xprtldctrl stop
```
- 2 次のコマンドを使って、ディレクトリ /var/VRTSat_lhc/ 内のファイルをすべて削除します。

```
#cd /var  
rm -rf /var/VRTSat_lhc/*
```
- 3 次のコマンドを使って、/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/ ディレクトリにある資格情報をバックアップします。

```
mv /var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/*.* /tmp/backupcreds/
```
- 4 このディレクトリで、次のコマンドを使って pem ファイルを削除します。
 - rm
/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/keystore/PubKeyFile.pem
 - rm
/var/VRTSat/.VRTSat/profile/certstore/keystore/PrivKeyFile.pem
- 5 次のコマンドを使って、実行しているすべての共有ブローカープロセスを再起動します。

```
/opt/VRTSat/bin/vxatd
```
- 6 次のコマンドを使って、ローカルホストを認証し、自己署名証明書を作成します。

```
export EAT_HOME_DIR=/opt/VRTSsfmh  
export EAT_DATA_DIR=/var/opt/VRTSsfmh/sec  
cd $EAT_HOME_DIR/bin  
./vssat authenticate -d localhost
```
- 7 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを開始します。

```
/opt/VRTSsfmh/adm/xprtldctrl start
```

Windows で壊れた AT pem ファイルを修復するには

- 1 次のコマンドを使って XPRTL D デーモンを停止します。

```
net stop xprtld
```
- 2 次のディレクトリのすべてのファイルを削除します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\%Application  
Data\%VERITAS%\Security\%Authentication\%VRTSat_lhc
```
- 3 次のディレクトリの資格情報をバックアップします。

```
AT_PROFILE_DIR¥certstore¥* c:¥temp¥*
```

AT プロファイルディレクトリは次の場所から取得できます。

- 64 ビット Windows の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥VERITAS¥Security¥Authentication¥Credential  
Manager¥Profiles¥SYSTEM¥ProfileDir
```

- 32 ビット Windows の場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Veritas¥Security¥Authentication¥Credential  
Manager¥Profiles¥SYSTEM¥ProfileDir
```

4 次の pem ファイルを削除します。

- `AT_PROFILE_DIR¥certstore¥keystore¥PubKeyFile.pem`
- `AT_PROFILE_DIR¥certstore¥keystore¥PrivKeyFile.pem`

5 次のコマンドを使って、実行しているすべての共有ブローカープロセスを再起動します。

- `sc stop vrtsat`
- `sc start vrtsat`

6 次のコマンドを使って、ローカルホストを認証し、自己署名証明書を作成します。

```
set EAT_HOME_DIR=%PROGRAMFILES%¥VERITAS¥VRTSsfmh  
set EAT_DATA_DIR=%ALLUSERSPROFILE%¥Symantec¥VRTSsfmh¥sec  
cd %EAT_HOME_DIR%¥bin  
vssat authenticate -d localhost
```

7 次のコマンドを使って XPRTLD デーモンを開始します。

```
net start xpirtld
```

管理サーバーをアンインストールすると Storage Foundation for Windows ホストから管理対象ホストパッケージが削除される

Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーを Storage Foundation for Windows ホストからアンインストールすると、管理対象ホストパッケージがホストから削除されます。したがって、別の管理サーバードメインにはホストを追加できません。

回避策:

Veritas Operations Manager ホスト管理をホストにインストールします。インストール後は、管理サーバードメインにホストを追加できます。

Veritas InfoScale Operations Manager が無効なアプリケーションの状態を表示する(2564572)

この問題は、Symantec ApplicationHA がアプリケーションを監視するように設定されている仮想マシンで発生します。ApplicationHA では、仮想マシンの自動リカバリが設定されている場合、設定可能な試行回数後に監視対象のアプリケーションが起動に失敗すると、仮想マシンが復元されます。仮想マシンの自動リカバリがトリガされると、最後の正常な仮想マシンのスナップショットがバックアップから復元されます。これは仮想マシンで実行されるアプリケーションも復元します。ただし、Veritas InfoScale Operations Manager は復元されたアプリケーションの状態を検出できないので、アプリケーションには障害が発生したと表示され続けます。

回避策:

現在のアプリケーションの状態を表示するには、管理対象ホストを再スキャンします。

仮想マシンの移行後、HMC サーバーおよび VMware vCenter Server の手動更新が必要になる(2605533)

この問題は、Veritas InfoScale Operations Manager の VMware vCenter Server と HMC の設定で発生します。ある ESX サーバーから別の ESX サーバーに VMware の仮想マシンを移行する(サーバーは両方とも同じ VMware vCenter サーバーの下にある)場合、または、ある LPAR サーバーから別の LPAR サーバーに LPAR の仮想マシンを移行する(LPAR サーバーは両方とも同じ HMC の下にある)場合に発生します。

移行後、変更は Veritas InfoScale Operations Manager コンソールにすぐには反映されません。変更は、スケジュール設定された自動スキャンの実行後に初めて反映されます。

回避策:

変更を確認するには、設定を手動更新する必要があります。

設定を手動更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの[ホーム(Home)]ページで、[設定(Settings)]をクリックします。
- 2 [仮想化(Virtualization)]をクリックします。
- 3 仮想化サーバーを右クリックして、[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 4 [仮想化設定の更新(Refresh Virtualization Configuration)]ウィザードパネルで、[更新(Refresh)]をクリックします。
- 5 [結果(Result)]パネルで[OK]をクリックします。

メモ: Veritas InfoScale Operations Manager は、特定の VMware イベントに基づく VMware インフラのニアリアルタイム検出も備えています。VMware vCenter Server から VM 移行イベント (VM の移行や DRS VM の移行など) をキャプチャし、Veritas InfoScale Operations Manager データベースの VMware データをニアリアルタイムで更新できます。VMware インフラのニアリアルタイム検出が有効になっている場合は、手動で VMware vCenter Server を更新する必要はありません。VMware イベントのニアリアルタイム検出の設定について詳しくは、『Veritas Operations Manager 管理サーバーインストール/設定ガイド』を参照してください。

VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後に正常に機能しないことがある (2814844)

管理サーバーが高可用性環境で設定され、制御ホストのアドオンがインストールされている場合、VMware ESX サーバーのパフォーマンスメータリングはフェールオーバー後から次の検出サイクルまで正常に機能しないことがあります。

次の検出サイクルまで、次の問題が発生することがあります。

- VMware ESX サーバーに対してパフォーマンスメータリングが開始しない。
- [ライブ (Live)] という期間が選択されているパフォーマンスグラフに、情報が何も表示されない。
- パフォーマンスグラフに、不正なエラーメッセージが表示されることがある。

回避策:

手動で VMware ESX サーバーの検出を更新する必要があります。

手動で VMware ESX サーバーの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの [ホーム (Home)] ページで、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 2 [仮想化 (Virtualization)] をクリックします。
- 3 仮想化サーバーを右クリックして、[設定の更新 (Refresh Configuration)] を選択します。
- 4 [仮想化設定の更新 (Refresh Virtualization Configuration)] ウィザードパネルで、[更新 (Refresh)] をクリックします。
- 5 [結果 (Result)] パネルで [OK] をクリックします。

VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラが使われる場合に仮想ストレージの相関が機能しない(3056561)

Windows、Linux、Solaris プラットフォーム上の VMware 仮想マシンで、デフォルト以外の種類の SCSI コントローラが使われる場合には仮想ストレージの相関 (vdisk 相関関係) が行われません。

Veritas InfoScale Operations Manager 高可用性 (HA) 環境で管理対象ホストの状態が誤って報告される(2780631)

この問題は Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーが高可用性 (HA) 環境に設定された場合に起きます。この問題は UNIX と Windows プラットフォームに適用されます。

管理対象ホストに障害があるときに、管理対象ホストの状態は Veritas InfoScale Operations Manager データベースで停止と報告されます。管理対象ホストが停止して管理サーバーが 1 つのノードから別のノードにフェールオーバーするとします。たとえば、MS1 から MS2 にフェールオーバーするとします。

管理対象ホストが管理サーバー HA 移行中に再起動した場合に、MS2 ノードは管理対象ホストの状態を起動として記録します。ただし、MS1 によって報告される管理対象ホストの障害と停止状態は (ニアリアルタイムデータが共有されないために) Veritas InfoScale Operations Manager データベースからクリアされません。

回避策:

アクティブな管理サーバーノードからの再スキャン操作を実行して、XPRTLD の起動や停止と関連している障害についての正しい状態が Veritas Operations Manager コンソールで更新されるようにします。

実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストでのみ正確である(3077899)

管理サーバーコンソールで、[最近のタスク (Recent Tasks)] ペインの実行中のタスクの情報が 6.0 以降の管理対象ホストに対してのみ表示されます。

バージョン 5.x より前の管理対象ホストがストレージプロビジョンとボリューム移行に対してリストされない

Storage Provisioning and Enclosure Migration アドオンを使う場合に、ストレージプロビジョンとボリューム移行は Veritas InfoScale Operations Manager バージョン 5.x 以降を実行する管理対象ホスト上でのみサポートされます。以前のバージョンがあるホストはストレージプロビジョンとボリューム移行操作に対してリストされません。

Hyper-V Server 上の同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが Veritas InfoScale Operations Manager で検出されない(3509138)

Veritas InfoScale Operations Manager では、同じ BIOS GUID を持つ複数の Hyper-V 仮想マシンが検出されません。Hyper-V Server (親パーティション) では、同じ BIOS GUID を持つ複数の仮想マシンが共存できることに注意してください。ただし、Veritas InfoScale Operations Manager では、BIOS GUID がこのような仮想マシンを検出するための一意の識別子として使われるため、1 つの仮想マシンしか検出されません。

この問題に対する回避策はありません。

クラスタのディスク情報にホストの正しいデータが表示されない(3532746)

管理対象ホストを 6.1 にアップグレードし、次の条件に当てはまる場合、[サーバー (Server)] パースペクティブでクラスタを選択したときに [ディスク (Disks)] タブにディスクが正しく表示されないことがあります。

- ホストが CVM クラスタの一部である。
- ディスクがどのディスクグループまたはボリュームグループにも属していない。
- ディスクが VxVM ではなく .LVM や ZFS などのネイティブボリュームマネージャの管理下にある。

これらのディスクは、それぞれのホストの [ディスク (Disks)] タブには正しく表示されます。

回避策:

これらのホストの Veritas InfoScale Operations Manager 管理対象パッケージを 6.1 にアップグレードした後、このようなディスクを共有している管理対象ホストすべてをいったん管理サーバードメインから削除し、その後で管理サーバードメインに再度追加します。

SAN ディスクで MPxIO を有効にした後に LDOM ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが行われぬ(3370824)

管理サーバーコンソールの [仮想化 (Virtualization)] パースペクティブには、ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが表示されます。ただし、SAN ディスクで Solaris 多重化 I/O (MPxIO) を有効にした後は、LDOM ストレージコンテナに対するディスクの関連付けが行われません。この問題は [仮想化 (Virtualization)] パースペクティブでのみ発生することに注意してください。[サーバー (Server)] パースペクティブでは、ディスクからボリュームへの関連付けまたはディスクグループの関連付けは正常に行われます。

[仮想化 (Virtualization)] パースペクティブに対する利用可能な回避策はありません。[システム (System)] パースペクティブ権限がある場合は、ディスクの関連付けが表示されます。

Qualsys スキャンが 5634 番のポートで失敗することがある(2903776)

管理サーバードメインでは、Qualsys スキャンは 5634 番のポートで失敗することがあります。

回避策:

VRTSsatlocal.conf ファイルで、SSLCipherSuite 属性の値を HIGH:MEDIUM:NULL:NULL:SSLv2 から RC4+SHA:MD5:NULL:SSLv2 に変更します。このファイルは次の場所にあります。

- UNIX: /var/opt/VRTSsfmh/sec/root/.VRTSsat/profile/VRTSsatlocal.conf
- Windows:
%ProgramData%\Symantec\VRTSsfmh\sec\systemprofile\VRTSsatlocal.conf

管理対象ホストの問題

次の問題はホスト管理に関連しています。

アップグレードした 7.0 管理サーバーに 7.0 より前のバージョンの管理対象ホストを追加するとエラーが起きる

7.0 より前のバージョンの管理対象ホストは、7.0 にアップグレードした管理サーバーと互換性がありません。

管理サーバーを 7.0 にアップグレードしてから 7.0 より前のバージョンの管理対象ホストを追加しようとすると、サーバーと通信できないことを示す不適切エラーメッセージが表示されます。

AIX 管理対象ホストでストレージのプロビジョニング操作を実行した後に Quick I/O のキャッシュの値が有効にならない(2131183)

VxFS ファイルシステムベースのストレージプロビジョニングテンプレートを使い、テンプレートの Quick I/O のキャッシュ (CQIQ) の値を「はい」に設定して AIX 管理対象ホストでストレージをプロビジョニングすると、ストレージのプロビジョニング操作は正常に完了します。ただし、キャッシュ I/O は適切に更新されません。vxtunefs 出力の「qio_cache_enable」の値は「0」のままです。

回避策:

AIX プラットフォームでは、VxFS の調整パラメータが正しく設定されていません。管理対象ノードから vxtunefs を使うことができます。

Storage Foundation for Windows 5.1 SP1 を実行するホスト上のシン LUN がシンとして検出されない(2513466)

Veritas InfoScale Operations Manager で、Storage Foundation for Windows バージョン 5.1 SP1 を実行するホスト上のシン LUN がシンとして検出されません。

回避策:

次の場所から Storage Foundation for Windows バージョン 5.1 SP1 の Hotfix をダウンロードし、ホストで実行してください。

<https://sort.symantec.com/patch/detail/4697>

インストールが成功したらホストを再起動します。

セキュアクラスタ間でリモート切り替え操作が失敗する(2530605)

セキュアモードで設定されているクラスタ間でグローバルサービスグループを切り替えようとすると、操作は失敗して次のエラーメッセージが表示されます。

```
VCS WARNING V-16-1-50824
```

```
Command (hagrp -switch servicegroupname  
targetsystemnametargetclustername failed
```

```
At least Group Operator  
privilege required on remote cluster targetclustername
```

回避策:

Veritas InfoScale Operations Manager は、Veritas Storage Foundation Messaging Service を使用して Veritas Cluster Server コマンドを実行します。デフォルトで、このサービスはローカルシステムアカウントのコンテキストで実行されます。このサービスを、ドメイン管理者アカウントのコンテキストで実行してから切り替え操作を行うように設定します。クラスタ内の管理対象ホストそれぞれについて、サービスアカウントを変更します。

サービスアカウントのコンテキストを変更するには

- 1 Windows Services MMC スナップインを開きます。
- 2 [Veritas Storage Foundation Messaging Service] を右クリックし、次に[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- 3 [ログオン (Log On)] タブをクリックし、以下を行います。
 - [アカウント (This account)] をクリックしてから[参照 (Browse)] をクリックし、[ユーザーの選択 (Select User)] ダイアログボックスでドメイン管理者権限を持つユーザーアカウントを指定します。
 - [OK] をクリックします。

- 4 [パスワード (Password)] および [パスワードの確認 (Confirm password)] フィールドにユーザーアカウントのパスワードを入力します。[OK] をクリックします。
- 5 サービスグループの操作を続行します。

HP-UX 管理対象ホストへのホスト追加操作が失敗する (2601265)

Veritas InfoScale Operations Manager で、エージェントを通して HP-UX 管理対象ホストを追加しようとする、操作が失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

管理対象ホストから CS ホストには到達できません。(CS host is not reachable from managed host.)

回避策:

追加する管理対象ホスト上で XPRTLD プロセスを再起動してから、ホストを追加します。

Windowsプラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマンスグラフを表示できない (3054870)

Windows プラットフォームで VxVM ディスクとボリュームのパフォーマンスグラフが表示されない場合は、管理サーバーコンソールで次の操作をします。

- HKLM\System\CurrentControlSet\Services\vxio\Performance の場所にある DisablePerformanceCounters レジストリキーの値がゼロであることを確認する
- XPRTLD サービスを再起動する

XPRTLD サービスを再起動するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

- net stop xpirtld
- net start xpirtld

ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加できない (2816487)

ホストの IPv6 アドレスを使って管理サーバーに管理対象ホストを追加できません。

回避策:

ホスト名を使って、管理サーバーにホストを追加します。

Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合に、不正な統計が DMP によって返される (2796418)

管理対象ホスト上の Storage Foundation のバージョンが 5.0 MP3 以前の場合、正しくないパフォーマンス統計が DMP (Dynamic Multipathing) パスによって返されます。イニ

シエータ、マルチパス用パス、エンクロージャの[書き込み/読み取りバイト数(Bytes Read/Written)]パフォーマンスグラフに表示される I/O 回数は、実際の I/O 回数より大きな値になります。

クラスタ化された設定のスレーブノードからトリガされたときにディスクグループの作成操作が失敗する(3196104)

クラスタ化された設定では、ディスクグループの作成操作がスレーブノードからトリガされたときやディスクの命名規則がマスターとスレーブで異なる場合に失敗します。

HP-UX 管理対象ホストで、パスイニシエータやアレイポート情報が一部のディスクに対して表示されない(3073128)

管理サーバーコンソールで、HP-UX 管理対象ホストのディスク情報を表示するときに、パスイニシエータやアレイポート情報が一部のディスクに対して表示されません。影響があるディスクは 512 より大きいコントローラ番号または 15 より大きいターゲット番号のディスクです。

完全修飾ホスト名が vfstab ファイルで使われているにもかかわらずファイルシステムのマウントに使われていない場合に、Solaris の NFS を検出できない(2747735)

Solaris の NFS (Network File System) が完全修飾ホスト名 (FQHN) を指定せずにマウントされているにもかかわらず /etc/vfstab ファイルに FQHN が含まれている場合、この NFS ファイルシステムは Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 で検出できません。

UNIX ホストの場合に[帯域幅(Bandwidth)]タブに正しくないデータが表示される(3484788)

UNIX ホストの場合、[帯域幅(Bandwidth)]タブの[伝送されたデータ(Data Transmitted)]列に表示されるレプリケートされたボリュームグループの帯域幅情報が正しくありません。これはホストが複数の管理サーバーに報告している場合にのみ発生します。

7.0 より前のバージョンの管理対象ホストで CVR 操作が正しく働かないことがある(3745404)

管理サーバーのバージョンが 7.0 で、管理対象ホストのバージョンが 7.0 より前の場合は、正しくないデータが検出されて RVG の[ホスト(Host)]^⑥タブに表示されることがあります。

アップグレードした 7.0 管理サーバーに 7.0 より前のバージョンの管理対象ホストを追加するとエラーが起きる

7.0 より前のバージョンの管理対象ホストは、7.0 にアップグレードした管理サーバーと互換性がありません。

管理サーバーを 7.0 にアップグレードしてから 7.0 より前のバージョンの管理対象ホストを追加しようとすると、サーバーと通信できないことを示す不適切エラーメッセージが表示されます。

エージェントレス検出の問題

次の問題はホストのエージェントレス検出に関連しています。

IPv6 アドレスを使ったホストのエージェントレス設定が失敗する(2414252)

IPv6 アドレスを使ったエージェントレスホストの設定が機能しません。エージェントレス検出を使って設定するホストのホスト名または IPv4 アドレスを指定する必要があります。

Storage Insight アドオンの問題

次の問題は Storage Insight アドオンに関連しています。

IBM SVC アレイの最初の検出の後に、パテのキャッシュの手動更新が必要になることがある(3114164)

この問題は、パスワードや PPK キーファイルを使って IBM SVC アレイを正常に設定し、アレイ検出が最初の検出サイクルの後に起きないときに発生します。この問題を解決するには、パテのキャッシュの手動更新を下記に記されているように実行する必要があります。

回避策:

Linux または Solaris プラットフォームのパテのキャッシュを更新するには

- 1 検出ホストにログオンします。
- 2 `/root/.putty/sshhostkeys` に移動して `sshhostkeys` を見つけます。
- 3 アレイホストエントリを削除します。
- 4 Storage Insight アドオンを使う IBM SVC アレイを再設定します。

Windows プラットフォームのパテのキャッシュを更新するには

- 1 Windows のレジストリを開きます。
- 2 HKEY_CURRENT_USER¥Software¥SimonTatham¥PuTTY¥SshHostKeys に移動します。
IBM SVC アレイの設定に使われているユーザークレデンシヤルと同じユーザークレデンシヤルを使うことを確認します。
- 3 IBM SVC アレイの IP アドレスを含む行を削除します。

管理者が新しい SSH キーペアを該当のユーザーに設定していた場合に PPK キーでの不一致が起こることがあります。PPK ファイル認証を使っている場合には、新しい PPK ファイルを管理者から入手してアレイの設定に使う必要があります。

ローカルにレプリケートされた EMC Symmetrix LUN で、最後の同期時間が SYMCLI バージョン 7.4 以降に対してのみ利用可能である (3249430)

これは Storage Insight アドオンを使った EMC Symmetrix エンクロージャの詳細検出に適用されます。ローカルにレプリケートされた LUN で、SYMCLI バージョン 7.3.x 以前が使われている場合に、最後の同期時間が Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーコンソールで利用できません。

回避策:

この情報を取得するには SYMCLI バージョン 7.4 以降を使う必要があります。

SYMCLI のバージョンが Storage Insight アドオン検出ホストでアップグレードされたときに Symmetrix エンクロージャの手動検出が必要になる (3289628)

これは Storage Insight アドオンを使った EMC Symmetrix エンクロージャの詳細検出に適用されます。SYMCLI のバージョンが検出ホストでアップグレードされた場合に、SYMCLI のバージョンが Symmetrix の機能(たとえば FAST)をサポートしている場合には、Symmetrix エンクロージャの設定を Veritas InfoScale Operations Manager コンソールから手動で更新してそれらの機能を検出する必要があります。

エンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後に正常に機能しないことがある (2814844)

管理サーバーが高可用性環境で設定され、Storage Insight アドオンを通じてエンクロージャが検出される場合、そのエンクロージャのパフォーマンスメータリングが、フェールオーバー後から次の検出サイクルまで正常に機能しないことがあります。

次の検出サイクルまで、次の問題が発生することがあります。

- エンクロージャに対してパフォーマンスメータリングが開始しない。
- [ライブ (Live)] という期間が選択されているパフォーマンスグラフに、情報が何も表示されない。
- パフォーマンスグラフに、不正なエラーメッセージが表示されることがある。

回避策:

手動でエンクロージャの検出を更新する必要があります。

手動でエンクロージャの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの [ホーム (Home)] ページで、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 2 [デバイス (Device)] をクリックします。
- 3 [エンクロージャの構成 (Enclosure Configuration)] タブでエンクロージャを見つけます。
- 4 エンクロージャを右クリックして [設定の更新 (Refresh Configuration)] を選択します。
- 5 [設定の更新 (Refresh Configuration)] パネルで [はい (Yes)] をクリックします。

EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージグループに関する情報が定期的に検出されない (2842124)

Storage Insight アドオンを使って EMC Symmetrix VMAX エンクロージャが設定されると、異なる FAST ティア間での FAST 管理対象ストレージグループのストレージ分布情報が、定期的な検出サイクルの一部として検出されないことがあります。

検出時間を最適化するために、定期的な検出は Symmetrix 監査ログを調べて特定の機能クラスや処理コードのみに変更が起きたかを判断します。

回避策:

Veritas InfoScale Operations Manager コンソールからエンクロージャを更新して、FAST 管理対象ストレージグループの更新情報を表示します。

手動でエンクロージャの検出を更新するには

- 1 管理サーバーのコンソールの [ホーム (Home)] ページで、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 2 [デバイス (Device)] をクリックします。
- 3 [エンクロージャの構成 (Enclosure Configuration)] タブでエンクロージャを見つけます。

- 4 エンクロージャを右クリックして[設定の更新(Refresh Configuration)]を選択します。
- 5 [設定の更新(Refresh Configuration)]パネルで[はい(Yes)]をクリックします。

Windows ホストで HP EVA エンクロージャを設定するときに、パスワードファイルオプションが機能しない(2757601)

この問題は、Storage Insight アドオン 6.1 を使った HP EVA エンクロージャのアレイの詳細検出に適用されます。SSSU (Storage Scripting System Utility) CLI のユーティリティバージョンが 9.4 以前の Windows ホストで、HP EVA エンクロージャの設定中にパスワードファイルオプションが機能しません。

回避策:

SSSU CLI のユーティリティバージョン 9.4 以降を Windows ホストにインストールします。次に、HP EVA エンクロージャを設定すれば、パスワードファイルオプションが使えます。

読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオペレータロールを持つユーザーに対して、EMC Celerra エンクロージャの詳細が検出されない

この問題は、Storage Insight アドオン 6.1 を使った EMC Celerra エンクロージャのアレイの詳細検出に適用されます。読み取り専用のアクセス権とインポート済みの管理者ロールまたはオペレータロールを持つユーザーがエンクロージャを設定しようとする、アレイ検出時にエンクロージャの詳細が取得されません。

回避策:

nasadmin ロールをユーザーに割り当てます。

FAST 管理対象ストレージグループの一部のデバイスにティア情報が表示されない(2795204)

EMC Symmetrix VMAX エンクロージャの FAST 管理対象ストレージグループでは、そのストレージグループのポリシーに関連付けられているティアの一部ではないデバイスに対して、ティア情報が表示されません。

ストレージグループを、[ストレージ(Storage)] パースペクティブで Symmetrix VMAX エンクロージャの [FAST] タブから選択した場合に、[FAST 管理対象デバイス(FAST Managed Devices)] ビューで、[ティア名(Tier Name)] が [OutOfPolicy] として表示され、[ティアタイプ(Tier Type)]、[保護レベル(Protection Level)] が [不明(Unknown)] として表示されます。

IBM System Storage DS エンクロージャの検出が、Veritas InfoScale Operations Manager の HiCommand Server 7 でサポートされていない(2708346)

日立 HiCommand サーバーは、さまざまなアレイ製造元や、IBM System Storage DS アレイなどのモデルの管理と検出をサポートします。ただし、Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 では、HiCommand Server 7 を使って IBM System Storage DS エンクロージャを検出できません。

Virtual Business Service の問題

Virtual Business Service の問題は次のとおりです

Virtual Business Service 起動操作によって、サービスグループのリソース重要度が確認されない(2169223)

起動操作はサービスグループに重要度の高くないリソースがあるかどうかを確認しません。したがって、この操作は、これらのリソースをオンラインにする間に発生する障害を検出しません。また、VBS の起動を試みるときにそのようなリソースですでに障害が発生しているかどうかを検出しません。このような障害がある場合、VBS の操作は完了しません。操作を中止することを選択できます。予防策として、サービスグループのすべてのリソースを重要として設定できます。

Storage Insight SDK Add-onの問題

次の問題は Storage Insight SDK Add-onに関連しています。

Storage Insight プラグインの編集操作とテスト操作が、64 ビット Windows ホストの Internet Explorer を使う環境でサポートされない(2826079)

この問題は、Storage Insight SDK アドオンがインストールされている 64 ビット Windows ホストで発生します。Internet Explorer を使うと、Storage Insight プラグインファイル (.sfa) をアップロードできません。このため、[編集(Edit)]操作と[テスト(Test)]操作は Internet Explorer で実行できません。

回避策:

Storage Insight プラグインの編集とテストには、他の Web ブラウザを使う必要があります。たとえば、Mozilla Firefox や Google Chrome などを使います。

Internet Explorer Web ブラウザで Storage Insight プラグインのアップロード操作が失敗することがある (3485662)

Internet Explorer Web ブラウザ (バージョン 8、10、11) を使って Storage Insight プラグインのファイル (.sfa) をアップロードしようとする、操作が失敗する場合があります。

回避策:

他の Web ブラウザを使って Storage Insight プラグインをアップロードします。たとえば、Mozilla Firefox や Google Chrome などを使います。

Fabric Insight アドオンの問題

以下の問題は、Fabric Insight アドオンに関連しています。

高可用性モードで設定された Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーが検出ホストとして使われている場合に SAN スイッチの検出が失敗する (3513295)

高可用性環境で設定された Veritas InfoScale Operations Manager 管理サーバーがスイッチ設定の検出ホストとして使われている場合、スイッチの検出が失敗します。管理サーバーコンソールを使ってスイッチ検出を設定する場合、設定が完了してもスイッチの詳細は検出されません。

回避策:

管理サーバー以外の管理対象ホストを使い、そのホストに Fabric Insight アドオンをインストールし、それをスイッチ検出の検出ホストとして使います。

vSphere Web Client 用 Veritas HA プラグインの問題

以下の問題は vSphere Web Client 用 Veritas HA プラグインに関連しています。

vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグインを VMware vSphere 5.1 と一緒に使っているときに高可用性 (HA) ダッシュボードの状態データとシステムデータが突然消える

この問題は vSphere Web Client 用 Symantec HA プラグイン 6.1 に該当します。VMware vSphere バージョン 5.1 をプラグインと一緒に使っている場合、[状態 (Status)] 列と [システム (System)] 列のエントリが Symantec 高可用性ダッシュボードから突然消えます。

この問題を解決するには、次のいずれかのオプションを使います。

- Web ブラウザのキャッシュを消去してから VMware vSphere Web Client を再起動します。
- VMware vSphere Web Client の他のタブ ([ストレージレポート (Storage Reports)] など) クリックし、Web ブラウザを更新して、[Symantec High Availability (Symantec High Availability)] タブに移動します。

メモ: この問題は VMware vSphere バージョン 5.1 でのみ発生します。VMware vSphere バージョン 5.5 では、高可用性ダッシュボードで [状態 (Status)] 列と [システム (System)] 列のデータを使用できます。

Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグインを登録解除した後も [高可用性 (High Availability)] タブが表示される (3498886)

Veritas Operations Manager 管理サーバーで vSphere プラグインを登録解除した後も、vSphere Web Client に [高可用性 (High Availability)] タブが表示されます。

回避策:

単一の vCenter Server の登録解除の場合:

単一の vCenter Server が設定されていて、vSphere プラグインを登録解除したときには、キャッシュされたプラグインデータを次の場所から削除する必要があります。

- vSphere 5.5U2: `C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client\vc-packages\vsphere-client-serenity`
- vSphere 6.0:
`C:\ProgramData\VMware\vCenterServer\cfg\vsphere-client\vc-packages\vsphere-client-serenity`

データを削除した後、VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。

複数の vCenter Server の場合は、次の手順を実行します。

- 複数の vCenter Server から vSphere プラグインを登録解除した場合は、VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。
- すべての vCenter Server から vSphere プラグインを登録解除した場合は、まずキャッシュデータを削除し、次に VMware vSphere Web Client サービスを再起動します。

これらの手順を正しく実行すると、vSphere Web Client に [高可用性 (High Availability)] タブが表示されなくなります。

ApplicationHA ホストでの Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホストのインストールまたはアップグレード後に、ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが失敗する

Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 管理対象ホストを ApplicationHA 5.1 Service Pack 2 または ApplicationHA 6.0 のいずれかがインストールされているホストでインストールまたはアップグレードすると、ApplicationHA コンソールのシングルサインオンが機能しなくなります。

この問題に対する回避策はありません。

HA コンソールアドオンタブの一部の操作が応答しなくなることがある (3805588)

Veritas InfoScale Operations Manager Web コンソールで、新しいポップアップウィンドウを起動する Symantec HA タブの一部の操作が応答しなくなります。ポップアップウィンドウに移動したり、ポップアップウィンドウを閉じることができません。

回避策:

別のタブをクリックして HA コンソールアドオンタブに戻ります。

その他の問題

このセクションでは Veritas InfoScale Operations Manager の残りの既知の問題セクションに分類できない追加の問題を示します。

仮想マシンの一部になっているディスクのエントリが重複する (2481982)

Storage Foundation を実行する仮想マシンに非 RDM ディスクがあり、ディスクに対してエンクロージャに基づく命名規則が有効になっている場合、Veritas InfoScale Operations Manager では [ホスト (Hosts)] > [ディスク (Disks)] タブにディスクが 2 回表示されます。この問題はディスクが VxVM とエンクロージャのオペレーティングシステムによって検出されるために発生します。

回避策:

ディスクの命名規則を `c##d##` に変更します。

Firefox ブラウザを使ってロシア語のユーザー名で管理サーバーを設定できない

Firefox ブラウザを使うと、ユーザー名がロシア語の場合に管理サーバーを設定できません。ユーザー名がロシア語である場合にのみ、基本的な認証機構が Firefox で正しく動作しません。

ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 の共存がサポートされない(2739241)

ApplicationHA コンソール 6.0 と Veritas InfoScale Operations Manager 7.0 には互換性の問題があり、この 2 つの製品は単一のサーバーで共存できません。

回避策:

ApplicationHA コンソールを 6.0.1 にアップグレードします。

RVGPrimary リソースのリソース属性が検出されない

6.1 よりも低いバージョンの VCS がある UNIX クラスターでは、RVGPrimary リソースの属性が Veritas InfoScale Operations Manager を通じて検出されません。

VMware VirtualCenter サーバーおよび ESX サーバーの検出で大文字/小文字が区別されない(2567318)

VMware VirtualCenter サーバーまたは ESX サーバーの検出時に、Veritas InfoScale Operations Manager は名前に大文字/小文字の違いしかない 2 つ以上の仮想ディスク同士を区別できません。Veritas InfoScale Operations Manager では、このようなディスクのうち 1 つだけが検出されます。

この問題は、ユーザーが Veritas InfoScale Operations Manager 6.0 環境で VMware VirtualCenter サーバーまたは ESX サーバーを設定していて、Veritas InfoScale Operations Manager 6.1 にアップグレードする場合に発生します。

MSSQL HA 設定の場合に[インスタンス(instance)]タブにオフラインインスタンスが表示されない(3516063)

MSSQL HA 設定の場合、[サーバー(Server)]パースペクティブの MSSQL データベースの[インスタンス(instance)]タブにオフラインインスタンスが表示されません。

リソースとして設定された仮想マシンが 1 台しか検出されない(3488469)

サービスグループにリソースとして設定された仮想マシンが複数含まれている場合、[VSystem(VSystems)]タブに仮想マシンが 1 台しか表示されません。

特定の条件において単一ホストのエントリがホストタブに 2 つ表示されることがある(3724295)

この場合に、単一ホストがホストタブに 2 回表示されることがあります。

- 複製を設定しているが、開始していない。

- 複製を正しく設定しておらず、リンクのいずれかが切断されている。

biosuuid が重複している場合に仮想マシンの台数が正しくない (3782776)

管理サーバドメインに同じ biosuuid の仮想マシンが複数ある場合は、[仮想化 (Virtualization)] パースペクティブにある VMware 仮想化サーバーの [概要 (Overview)] タブに仮想マシンの台数が正しく表示されません。

回避策:

仮想マシンの正しい台数を検出するには、仮想マシンに重複のない biosuuid を設定する必要があります。

データストアを NFS 関連するためにのアレイを更新する必要がある

アレイと vCenter サーバーを設定した後、NFS 関連に適切なデータストアを取得するためにアレイを更新する必要があります。

アレイの設定時にパスワードに使えない特殊文字 (3677693)

アレイを設定するときに、特殊文字を含むユーザーパスワードを入力すると、アレイの設定に失敗することがあります。

サポート情報

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Web 上での Veritas InfoScale Operations Manager 情報](#)
- サポート情報
- 製品マニュアルの使用

Web 上での Veritas InfoScale Operations Manager 情報

Veritas InfoScale Operations Manager の総合的な最新情報については、シマンテック社の Web サイトを参照してください。

<http://go.symantec.com/vom>

サポート情報

製品の使用中に問題が発生した場合は、製品マニュアルやオンラインヘルプを参照します。必要であれば、シマンテック社に報告してください。

技術的な支援が必要な場合は、次の Web サイトを参照してください。

www.symantec.com/enterprise/support/index.jsp

このサイトでは、TechNote、製品アラート、ソフトウェアダウンロード、ハードウェアとソフトウェアの互換性リスト、お客様への電子メール通知サービスなどのリソースにアクセスできます。製品マニュアルの現在および過去のリリースなどの追加製品情報にアクセスするには、ナレッジベース検索機能を使います。

製品マニュアルの使用

表 A-1 は、Veritas InfoScale Operations Manager ガイドを一覧表示し、表 A-2 は、Veritas InfoScale Operations Manager マニュアルを一覧表示します。

表 A-1 Veritas InfoScale Operations Manager ガイドの名前

マニュアルのタイトル	説明
Veritas InfoScale Operations Manager のハードウェアとソフトウェアの互換性リスト (HSCL)	ハードウェアとソフトウェアの互換性リスト
Veritas InfoScale Operations Manager リリースノート	新機能、解決した問題、既知の問題、制限事項などのリリース情報
Veritas InfoScale Operations Manager インストール/設定ガイド Veritas InfoScale Operations Manager ユーザーズガイド Veritas InfoScale Operations Manager アドオンユーザーズガイド	Veritas InfoScale Operations Manager についての情報
Veritas InfoScale Operations Manager よく寄せられる質問	Veritas InfoScale Operations Manager についてよく寄せられる質問のリスト
Veritas InfoScale Operations Manager Third-Party License Agreements	Veritas InfoScale Operations Manager で使うサードパーティ製ソフトウェアについての情報
Veritas InfoScale Operations Manager Quick Start Guide	Veritas InfoScale Operations Manager の資産のインストール、設定、検出に関する短くて簡潔な情報

表 A-2 Veritas InfoScale Operations Manager マニュアルの URL

URL	説明
https://sort.symantec.com/documents	製品マニュアルの最新バージョン
http://www.symantec.com/connect/videos/vom-videos	ハウツービデオのリスト
http://www.symantec.com/docs/TECH231302	このリリースに関連した最新のニュース

Veritas InfoScale Operations Manager ヘルプコンテンツは Web で利用できます。製品のヘルプを起動するとアクセスします。ヘルプコンテンツは製品リリースとは関係なく更新することがあります。